広報レポーターが気づいたまちの魅力

住みよさ実感

繋（つな）がる歴史を感じる散歩道
～木下万葉公園から木下交流の杜広場へ～

広報レポーター
宇野 建夫（小倉台）

手賀沼と利根川に囲まれ、かつて水運で栄えた宿場の名残を感じる木下の町の一角の小高い丘に、木下万葉公園とそこに接する木下交流の杜公園があります。公園へのアプローチはいくつかあり、今回は国の天然記念物「木下貝層」の白い看板を見て、かつて「紅葉谷」といわれた斜面の石段から登りました。深山幽谷を模した石積みの中はしんとした静けさがあり、ところどころに万葉集の歌とそれにちなんだ植物の説明板が立っています。

紅葉谷と呼ばれた斜面

木下万葉公園後援会の山口進さんは、「木下万葉公園は、平成17年に県立印旛高校の万葉植物園と呼ばれた学校植物園を引き継ぎ、市の公園として開園し、万葉集に詠まれた植物の歌170首のうち84首の説明板が設置され、私たちはボランティアでその維持活動と環境美化のお手伝いを続けています」と公園の由来などを語ってくれました。昭和41年ごろの学校植物園には約800種、4万本の樹木・樹苗が植えられ、全国でも類を見ない学校植物園であったそうです。

石段を上がり、さらに歩みを進めると、常緑広葉樹のシイの古木の中を進む小道があり、そこを抜けると河津桜とアジサイが斜面一面に植栽され、子どもたちに人気のローラーすべり台が望めます。さらに、高校の体育館があった場所に建つ「木下交流の杜歴史資料センター」の先の広場からは、近くに筑波山、遠くに富士山まで関東平野を囲む山並みと、利根川の悠然とした流れも望めます。あなたも新しい発見に出会えるかもしれません。

万葉人の心を伝える説明板

木漏れ日が美しい